

地域資源を管理・活用 できる人材育成を



山本敬介議員

1 地域の資源を管理し、 活用できる人材の育成を

問 有害駆除対策は、狩猟による駆除と資源の有効活用のため、平成24年4月に野生獣処理加工施設「ジビエ工房森の恵み」を建設して進めてきました。これまでの取組みは非常に評価できると考えます。現在の有害駆除の状況と猟区の進捗について伺います。

中村村長 村が管理する占冠村猟区は、平成26年9月から10年間の設定期間を設けて安全管理された狩猟環境の実現に向け、取り組んでいます。当面2年程度を準備期間として、地域おこし協力隊制度を活用して2人の専門スタッフを林業振興室に配置し、取り組んでいます。

問 この2人の専門員ですが、今年度で地域おこし協力隊の制度は終了ということですか。次年度以降は、どのような体制になるのか伺います。

中村村長 地域おこし協力隊の任期は、平成28年6月末となっております。ただ当初より年度末の雇用期間としておりまして、平成29年3月末までの配置で考えています。任期以降は

今後検討していきませんが、引き続き現行体制を維持していきたいと考えています。

問 猟区は、エゾシカやヒグマの有害駆除の対策に重きを置いていると思いますが、修学旅行などの教育的な側面、そして国内の狩猟を中心としたツーリズムも進めていきたいという声もあります。専門員は、こうしたことも担っていく人材と認識していますが、村長の考えを伺います。

中村村長 エゾシカ対策は、平成23年度にエゾシカ対策基本構想を策定し、それに基づいて進めています。エゾシカを資源として捉えて色々な面で振興していきたいと思っております。それには安全に猟をしていただき、エゾシカの個体数を管理していく方針です。

問 村内に定着していただいで、先進的な仕事も含めて進めていくためには、例えば西興部村の猟区管理などを参考に、NPO化していくのが望ましいと考えますが伺います。

中村村長 そういった人材を育成していくことは今後村の振

興にもつながると考えています。

問 村内にはエゾシカやヒグマ以外にも大変有効な資源が沢山あり、長い目で見ると大きな経済価値も出てくると思われます。これらを管理する人材を育成していきたいということですが、具体的に方向性を伺います。

中村村長 総面積の94%が山林という我が村の今後の振興を



エゾシカの保護管理を学ぶ修学旅行の受け入れ

考えますと、やはり山林を活用した振興策が必要と考えています。基本的には山作り、そして副産物であるバイオマスエネルギー、山菜、エゾシカ、メープルシロップ、さらには赤岩青巖峡をはじめとした自然景観の保全などやらなければならぬことが沢山あります。専門的な人材を育成するには、長いスパンで考えて何を優先していくのか、内部で検討していきます。